激励の電話とカンパ・ボランティアが続々

2日目37人

前日の夜に４人

おかやま「年越し派遣村」が開設された初日の夜に４人の方が訪ねてこられました。

この方たちを含めて２日目の入村者は３７人となり、前日より７人増となっています。

ボランティアは、２日目は５０人でした。

激励とボランティアの申し込みなど多数

２日目は、前日のニュースや新聞報道を見た市民からの激励の電話とボランティアの申し込み・カンパや支援物資の提供など、朝から事務所の電話に多数寄せられました。主な内訳はボランティアの申し込みが８件、支援物資やカンパの申し込みが５件でした。中には、テレビで見たが、まだ相談に行ってもよいか、とか、倉敷のハローワークから臨時宿泊所を紹介してほしいという依頼も寄せられています。

昨日から今日までに現地に寄せられたカンパの総額は、２５万円を越えました。急遽作成した郵便局の口座へのカンパ申し込みもあります。わずかな期間でここまでカンパが寄せられることは、市民の関心の高さと事態の深刻さが伝わっている証左です。

生活保護５人、シェルターなどへの入居も

ハローワークプラザでの生活保護の申請が本日までということで相談者の内容から一刻も早く生活保護につなげる必要性がある判断した５人は、直ちにハローワークプラザで申請し受理されました。

また、シェルター利用の希望者にもホテルの提供も合わせた宿泊所の確保をしました。その他、法律問題などには弁護士が解決案を模索するなど、短い期間でできるだけの手立てを打ちました。

特宣隊も出動

昨日に派遣村に参加された方で構成する「特宣隊」も結成されて、まだまだ、派遣村の存在をしらない人たちへの宣伝も行うこととなりました。特に、市内で野宿されている人たちなど、新聞やニュースの情報が伝わりにくい人たちに知らせていくことは何よりも重要です。昨日の、マスコミの数の多さに驚いて帰った人も今日は、マスコミの取材もほとんどなく、平穏になっているので、宣伝が伝われは参加する人も増えてきます。

新年まであと一日、明日の年末も忙しくなります。。

東京の「派遣村」も都内数箇所の公園で今日から村を開き、夜に宣伝隊を出していくそうです。

市民と「センター」と行政が力を合わせて一人でも多くの人の力になれるよう奮闘することが求められています。

カンパ（現金分）到達点２５８，０１０円（12月30日現在）

派遣・労働者支援センター

派遣村ニュース

第２号　　2009年12月30日

発行：派遣・労働者支援センター

岡山市北区春日町5-6　県労おかやま内

TEL. 086-234-2041　fax. 086-221-3595